



# 徳島市地域公共交通会議

## 平成27年度第2回会議資料

平成27年12月22日



# 公共交通不便地域に関する 市民アンケート調査結果

# 1 調査概要

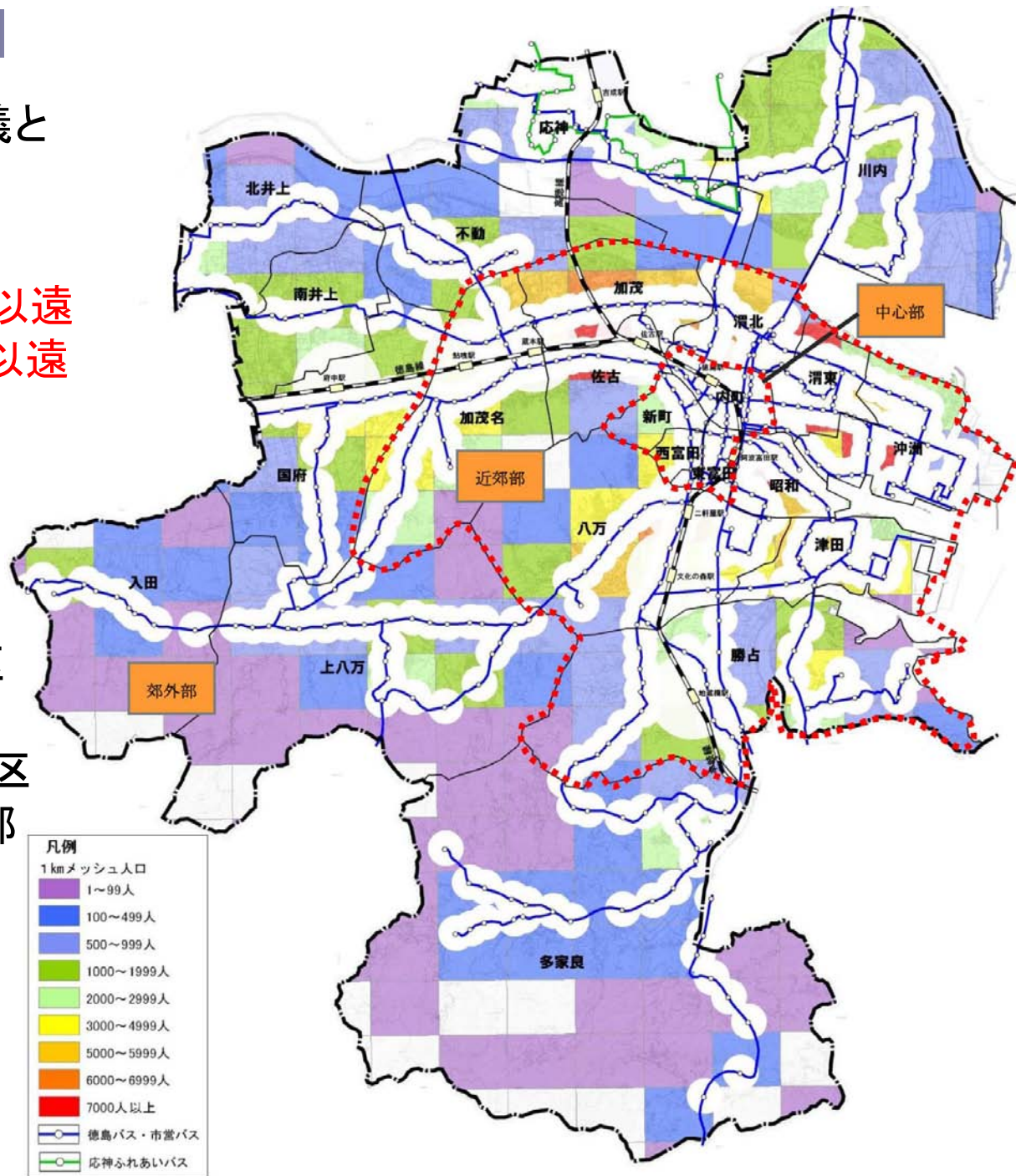
調査目的	公共交通不便地域の現状や住民ニーズを把握し、移動手段の確保についての改善策を検討する。
調査対象	公共交通不便地域に居住する16歳以上の市民3,000人 (無作為抽出) ※ 公共交通不便地域の定義と人口密度:2ページ下段参照
調査方法	郵送方式
調査期間	平成27年8月19日(水)~9月4日(金)
回答状況	配布数3,000件、回答数1,366件、不明戻数15件、回答率45.8%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・回答者の属性(地区、性別、年齢、職業、自動車運転免許の保有状況、自動車の所有状況、一人での外出の可否)</li><li>・日常の外出行動</li><li>・外出時の不便度</li><li>・現在の移動状況及び将来の移動に対する不安度</li><li>・公共交通の利用意向</li><li>・路線バスなどの公共交通の維持・確保のあり方</li><li>・公共交通に関する意見・要望(自由記述)</li></ul>

## ■公共交通不便地域の定義と人口密度

○公共交通不便地域は、  
鉄道駅から半径700m以遠  
バス停から半径300m以遠  
の地域とする。

○市内南部、西部と沿岸部に多く存在する。

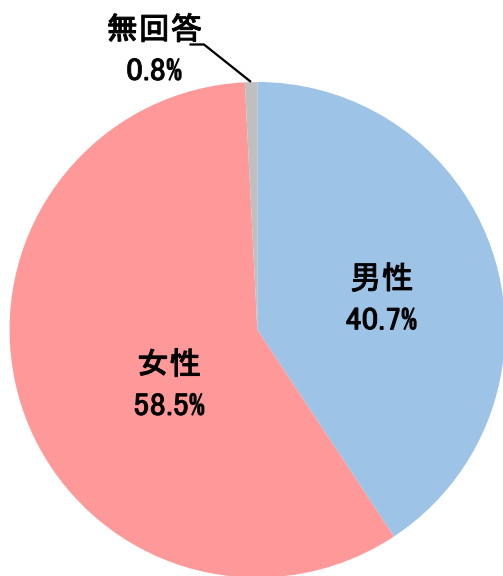
○人口密度は、加茂地区の吉野川沿い、佐古、加茂名、八万、川内地区などで比較的高く、南部では低い。



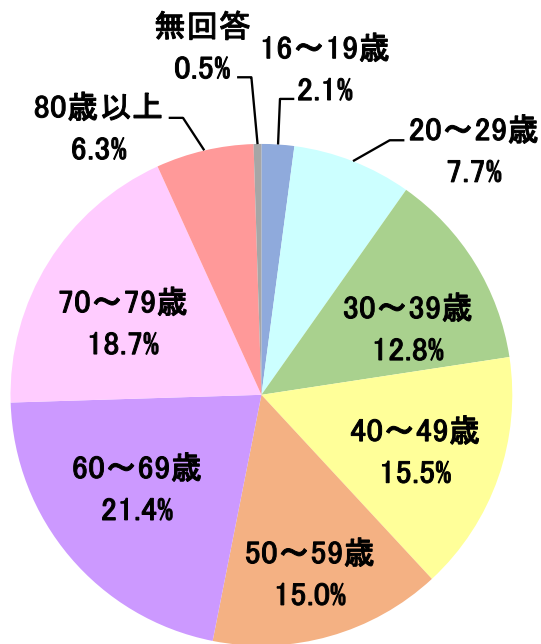
## 2 回答者の属性

- 性別は男性が40.7%、女性が58.5%、年齢は60歳代が21.4%、70歳代が18.7%と高く、60歳以上が約半数を占めている。
- 職業は会社員・公務員が29.1%と最も高く、無職が24.7%、専業主婦・主夫が18.4%と続いている。

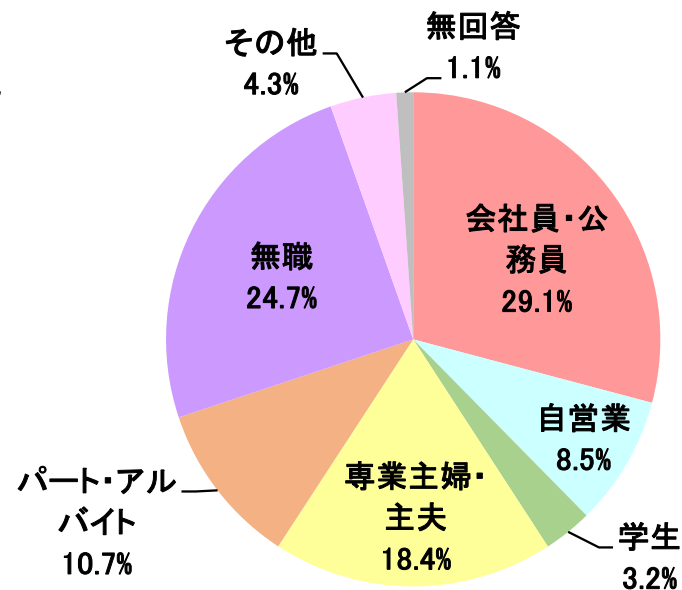
■性別



■年齢



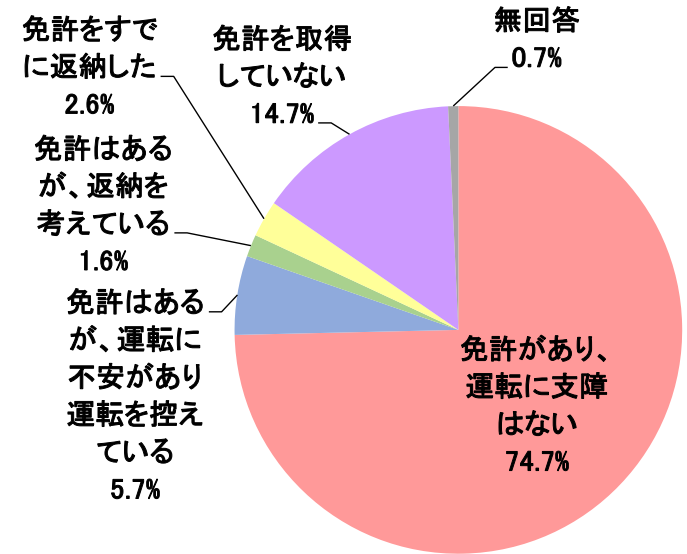
■職業



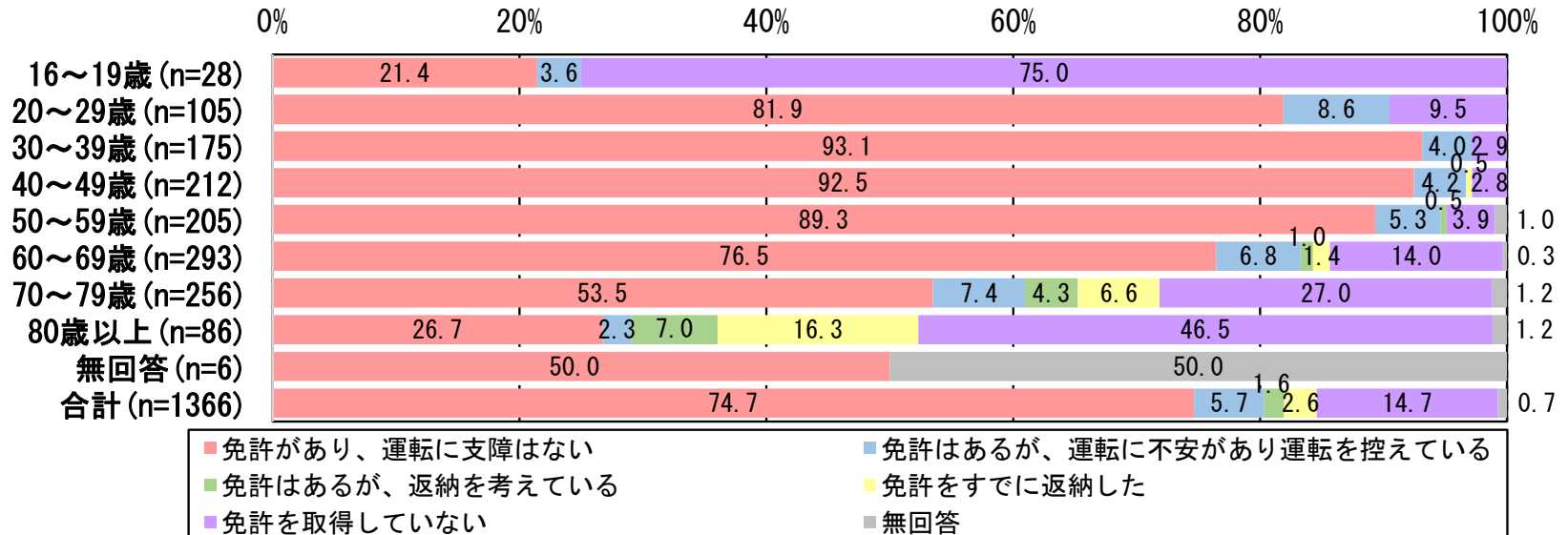
## 2 回答者の属性

- 自動車運転免許の保有状況は、「免許があり、運転に支障はない」が74.7%と最も高い。「免許はあるが、運転を控えている」、「返納を考えている」、「返納した」、「取得していない」を合わせると、24.6%を占める。
- 年齢別に見ると、「免許があり、運転に支障はない」は70歳代では53.5%、80歳以上では26.7%と減少する。

■自動車運転免許の保有状況



■自動車運転免許の保有状況(年齢別)



# 3 日常の外出行動について

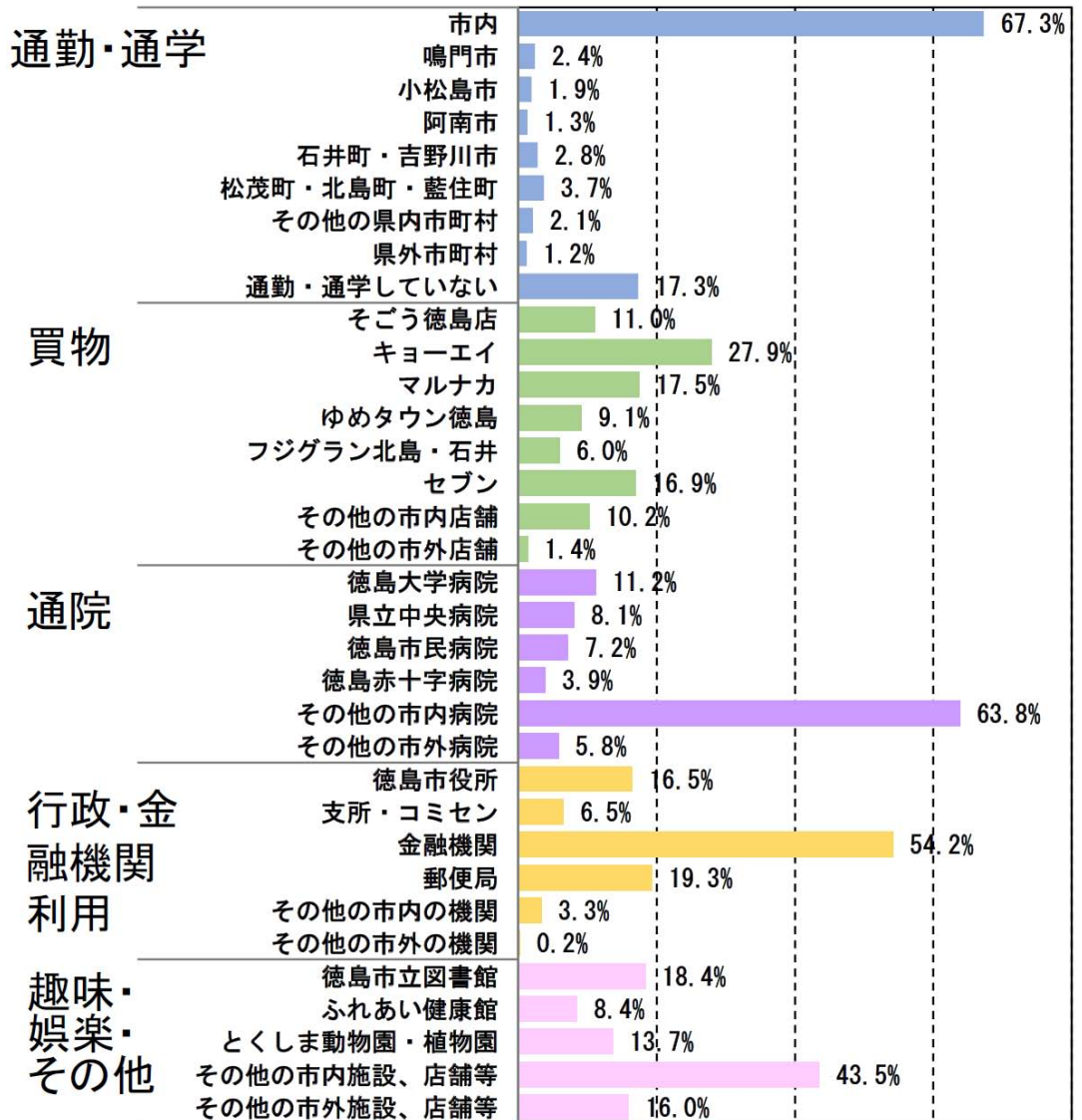
■外出目的別の主な行き先

## (1) 外出目的別の主な行き先

○通勤・通学の主な行き先は、「市内」が最も多い。

○買い物の主な行き先は、「キョーエイ」、「マルナカ」、「セブン」の順に多く、通院は、「その他の市内病院」が最も多い。

○行政・金融機関利用では、「金融機関」、「その他の市内施設、店舗等」が最も多い。



## (2) 外出時の主な交通手段

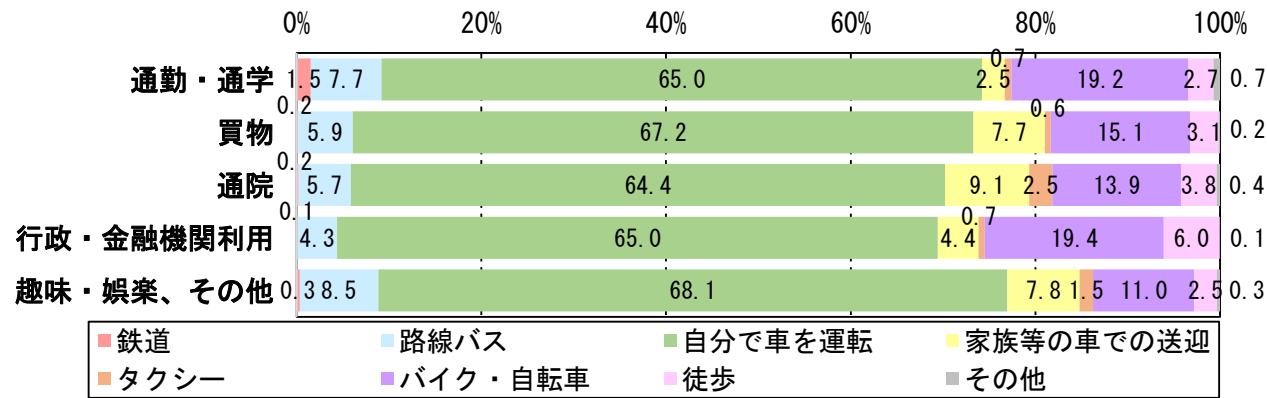
○外出時の主な交通手段は、各目的とも「自分で車を運転」が6～7割と高い。

○鉄道、路線バスと回答した人の、駅・バス停までの交通手段は、「路線バス」、「徒歩」の割合が高い。

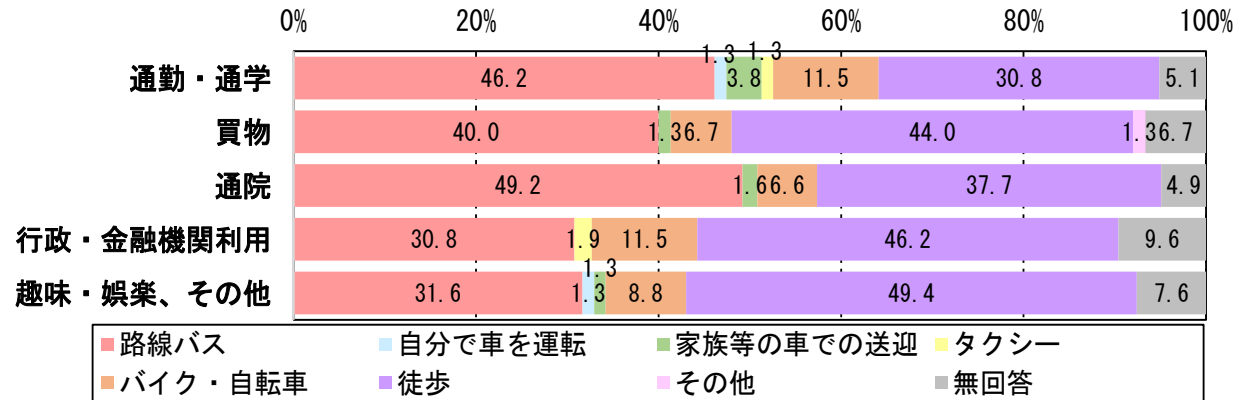
## (3) 外出頻度

○外出頻度(週に5日以上)は、「通勤・通学」が最も高く、「買物」では、「週に1～2日」と答えた人の割合が最も高い。

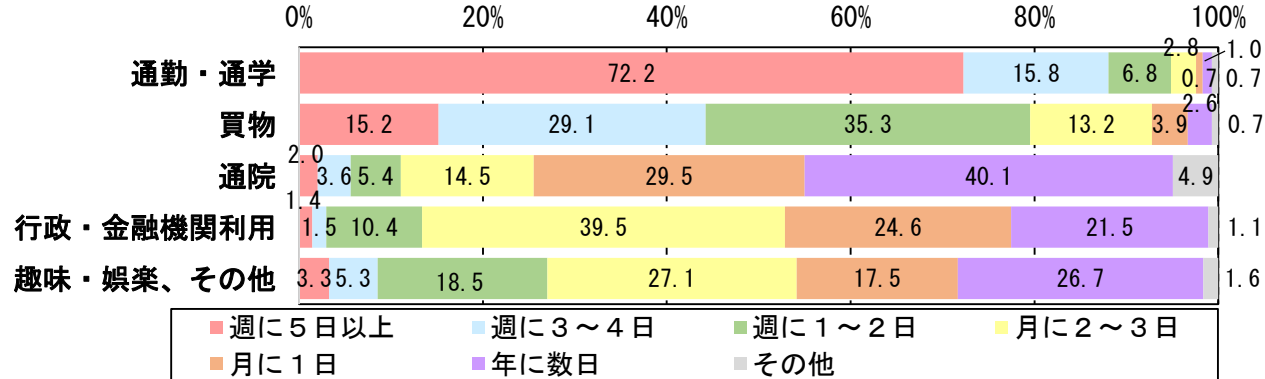
### ■外出時の主な交通手段



### ■駅・バス停までの交通手段(鉄道、路線バスと回答した人のみ)



### ■外出頻度





# 4 外出する時の不便度

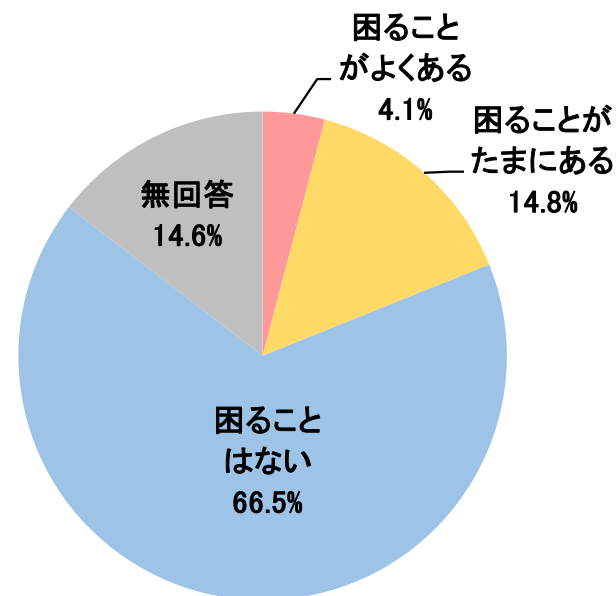
## (1) 外出する時に交通手段がなくて困ることの有無

○回答者全体では、外出時に「困ることがよくある」、「困ることがたまにある」と回答した人の合計は18.9%。

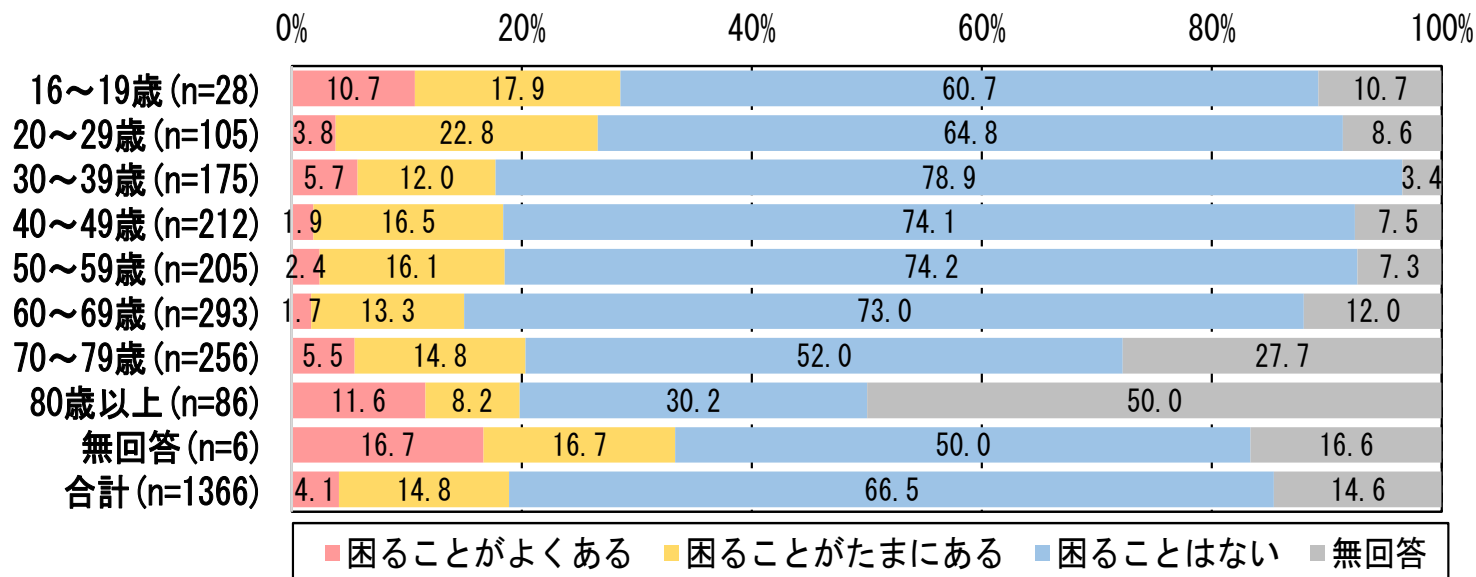
年齢別では、16～19歳、20歳代、70歳代及び80歳以上で全回答者平均を上回っている。

○「困ることがよくある」と回答した人の割合は16～19歳、80歳以上で高い。

■外出する時に交通手段がなくて困ることの有無



■外出する時に交通手段がなくて困ることの有無(年齢別)



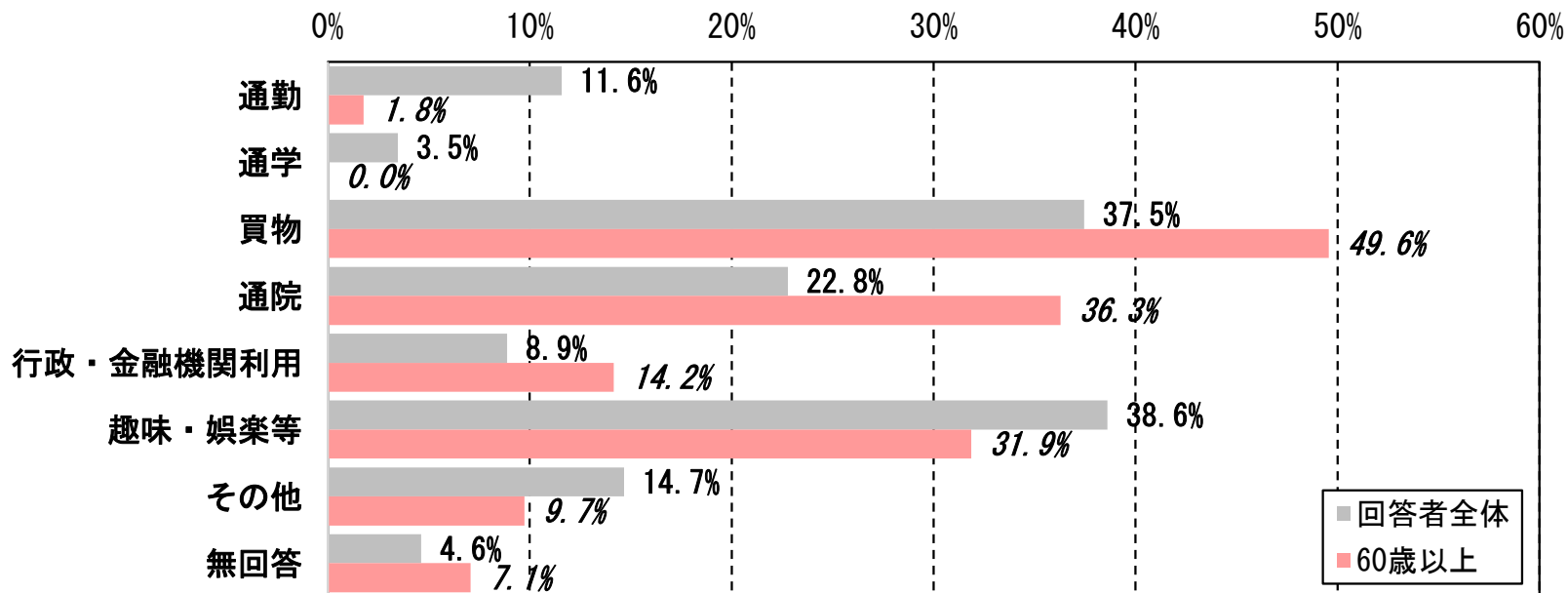
# 4 外出する時の不便度

## (2) 交通手段がなくて困る時の外出目的

○回答者全体では、「趣味・娯楽等」が最も高く、「買物」、「通院」の順となっている。

60歳以上では、「買物」が最も高く、「通院」、「趣味・娯楽等」の順となっている。

■困っている時の外出目的 ※回答者全体 n = 259、60歳以上 n = 113



(複数回答)

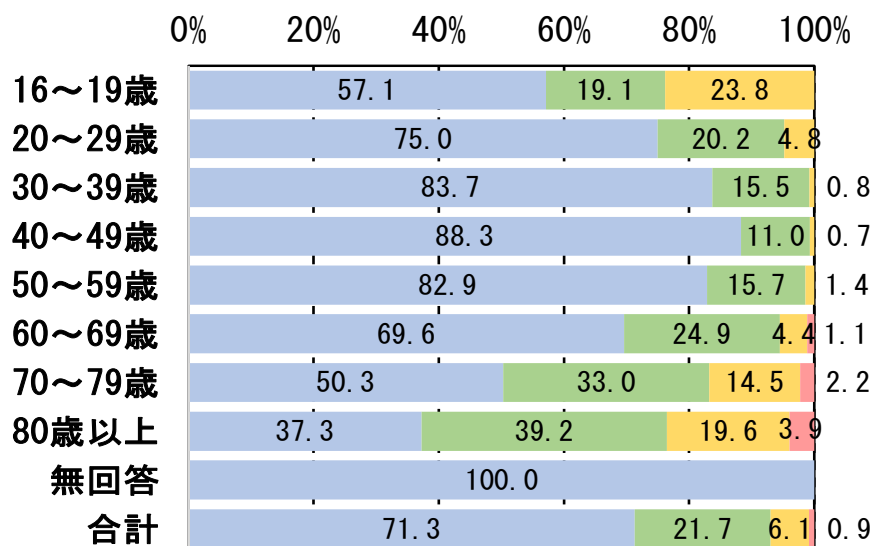
# 5 現在の移動状況・将来の移動に対する不安度

## (1) 現在の移動状況

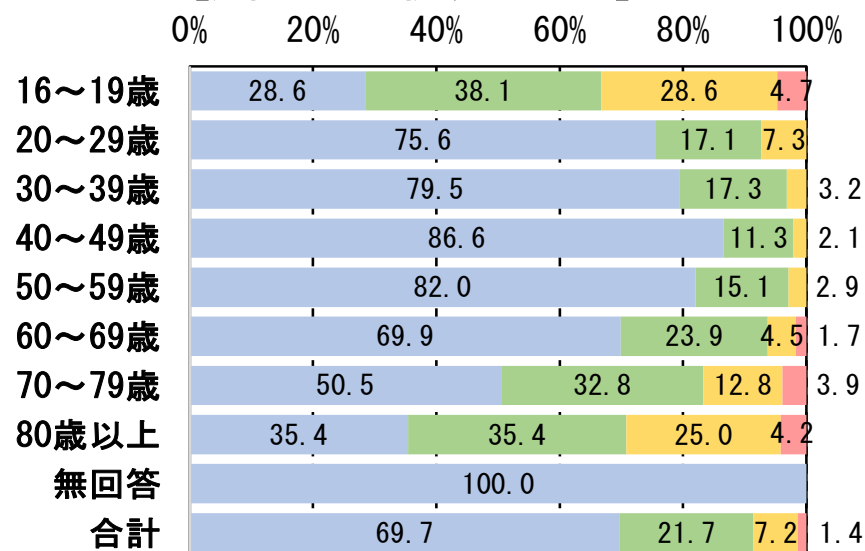
- 買物・通院先への移動については、回答者全体では「1人で十分できる」と「1人で何とかできる」の合計が約9割を占めている。
- 年齢別では、16歳～19歳、80歳以上で「誰かの助けがあればできる」が約20～30%と他の年代に比べて高く、80歳以上では「できない」も約4%と高くなっている。

■現在の移動状況(年齢別)

【買物先への移動について】



【通院先への移動について】



■ 1人で十分できる      ■ 1人で何とかできる  
 ■ 誰かの助けがあればできる      ■ できない

■ 1人で十分できる      ■ 1人で何とかできる  
 ■ 誰かの助けがあればできる      ■ できない

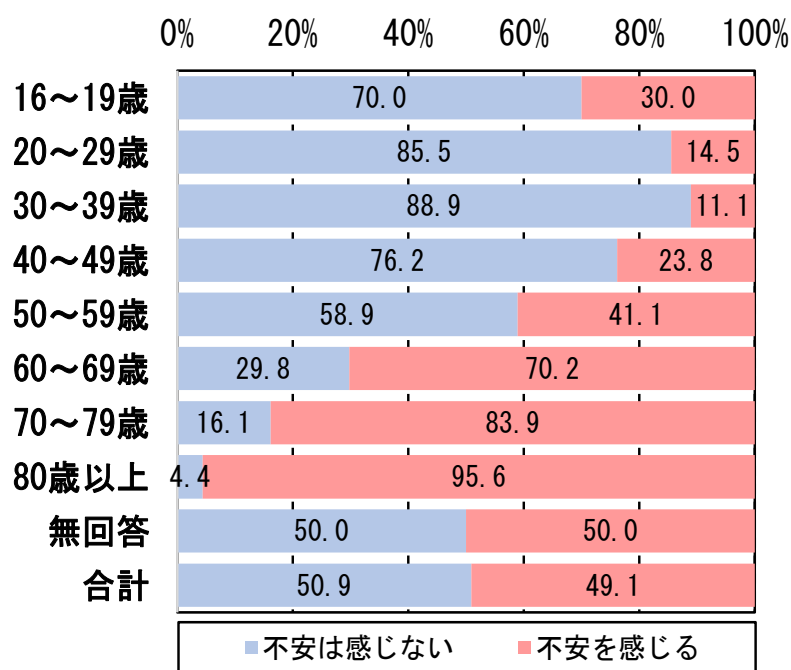
# 5 現在の移動状況・将来の移動に対する不安度

## (2) 将来(10年後)の移動に対する不安度

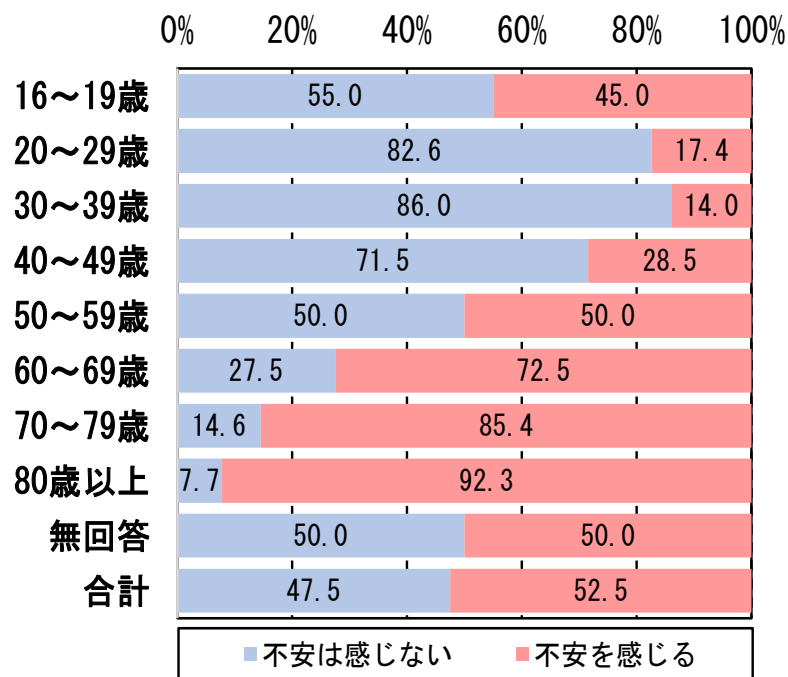
- 回答者全体では、買物・通院とも、「不安は感じない」、「不安を感じる」が約5割と同程度となっている。
- 年齢別では、60歳以上で「不安を感じる」人の割合が7割を超え、高齢になるほど割合が高くなっている。

### ■将来の移動に対する不安度(年齢別)

【買物先への移動について】



【通院先への移動について】



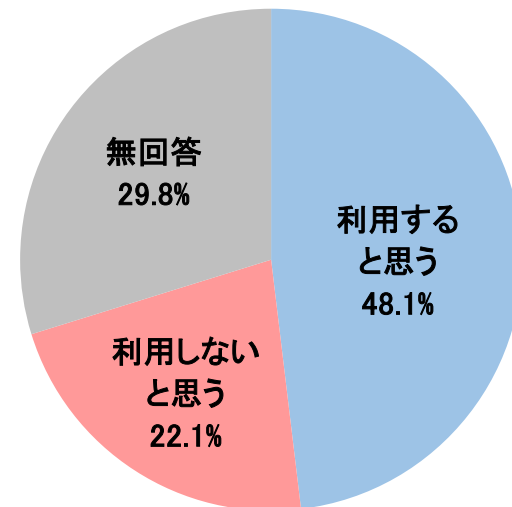
## 6 公共交通の利用意向

### (1) バスが運行した場合の利用意向

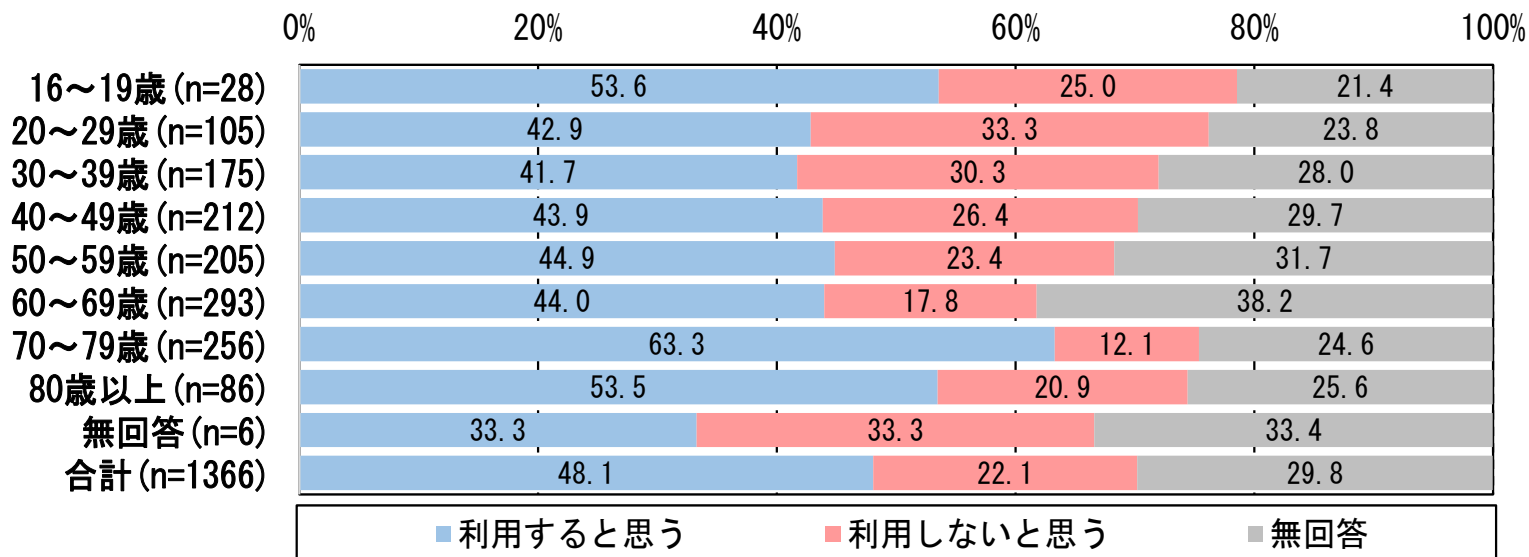
○仮に自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向は、回答者全体では「利用すると思う」が48.1%と、「利用しないと思う(22.1%)」を上回っている。

○年齢別では、「利用すると思う」の割合は、70～79歳で最も高く、16～19歳、80歳以上の順となっている。

■自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向



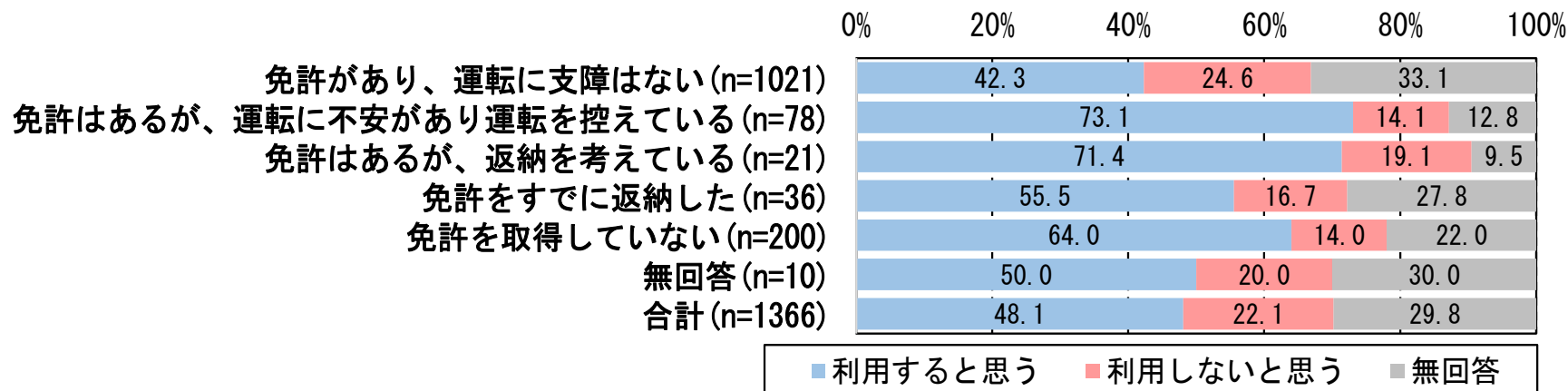
■自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向(年齢別)



## 6 公共交通の利用意向

○自動車運転免許の保有状況別に見ると、「免許はあるが、運転に支障があり運転を控えている」、「免許はあるが返納を考えている」人で、「利用すると思う」と回答した人の割合が7割以上と高い。

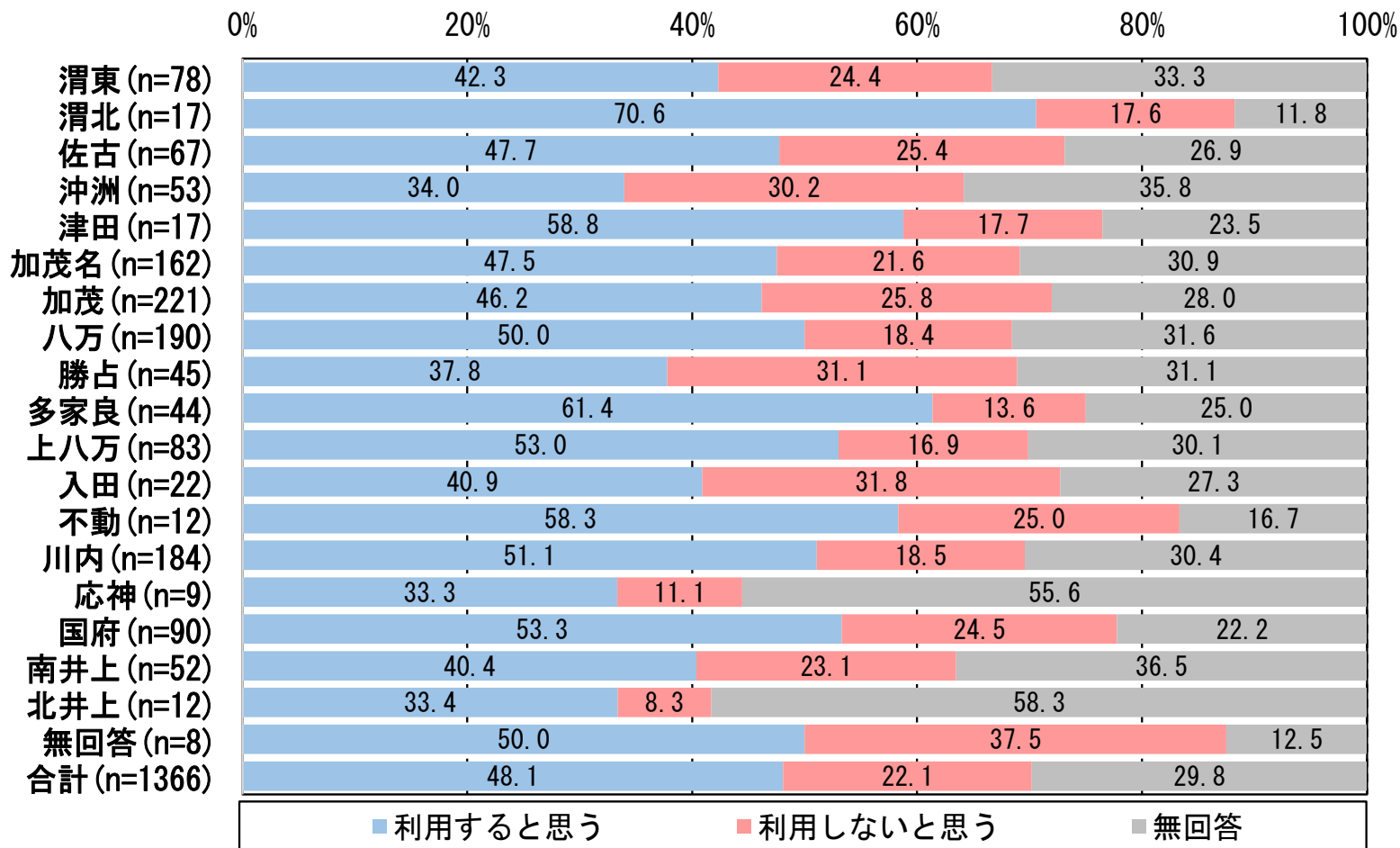
■ 自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向  
(自動車運転免許の保有状況別)



## 6 公共交通の利用意向

○地区別では、「利用すると思う」と回答した人の割合は、渭北が最も高く、多家良、津田の順となっている。


■自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向(地区別)



## 7 結果とりまとめ

### (1) 高齢社会の中で今後増加する交通弱者への対応(市全体)

- 徳島市の高齢人口(65歳以上)は、平成2年から27年までの25年間で約2.06倍に増加し、総人口に占める割合も12.7%から26.7%と2.1倍に増加しており、今後さらに増加していくことが予想される。
- 市民アンケート調査によると、高齢になるほど「免許はあるが運転を控えている」、「返納を考えている」などの割合が高くなり、「返納した」「取得していない」を合わせた割合は、70歳代では約5割、80歳以上では約7割となっている。
- 外出時の交通手段に「困ることがよくある」人の割合は、全体では約4%と少ないものの、20歳未満、80歳以上では10%を超えている。
- 将来の移動に対する不安は、全体の約半数の人が感じており、その割合は高齢になるほど高くなり、60歳代が約7割、70歳代が約8割、80歳以上では約9割となっている。

 **高齢者などの交通弱者に配慮した移動手段確保の必要性**



## (2) 行政地区別の結果とりまとめ

区分		市全体	近郊区									郊外部									
			渭東	渭北	佐古	沖洲	津田	加茂名	加茂	八万	勝占	多家良	上八万	入田	不動	川内	応神	国府	南井上	北井上	
人口特性	総人口(人)※	256,315	14,539	15,146	11,631	17,482	15,330	23,925	19,988	27,486	17,225	6,748	9,105	1,564	2,861	16,957	5,474	13,007	6,158	4,118	
	65歳以上人口(人)※	68,440	3,748	3,729	3,587	4,160	4,259	6,428	4,319	6,836	4,310	2,069	2,842	542	992	4,148	1,605	3,560	1,716	1,286	
	高齢化率	26.7%	25.8%	24.6%	30.8%	23.8%	27.8%	26.9%	21.6%	24.9%	25.0%	30.7%	31.2%	34.7%	34.7%	24.5%	29.3%	27.4%	27.9%	31.2%	
市民アンケート調査結果	「自動車運転免許はあるが、運転に不安があり運転を控えている」「返納を考えている」「返納した」「免許を取得していない」人の割合																				
	地区全体	24.6%	21.8%	29.4%	31.3%	18.9%	35.3%	27.8%	27.2%	26.8%	17.8%	22.7%	24.1%	18.2%	8.3%	20.6%	22.2%	25.6%	19.2%	8.3%	
	60歳以上	38.7%	37.5%	62.5%	47.8%	41.1%	60.0%	38.6%	41.9%	39.8%	27.3%	33.3%	38.8%	27.3%	16.7%	35.8%	40.0%	40.4%	31.0%	11.1%	
	普段、外出する時に交通手段がなくて「困ることがよくある」「困ることがたまにある」人の割合																				
	地区全体	18.9%	16.7%	47.1%	22.4%	15.1%	17.7%	20.4%	14.5%	18.9%	15.5%	20.4%	25.3%	13.6%	8.3%	22.9%	11.1%	20.0%	11.5%	0.0%	
	60歳以上	17.8%	25.0%	50.0%	34.8%	11.8%	20.0%	11.4%	13.3%	16.3%	13.6%	4.8%	26.6%	0.0%	0.0%	28.4%	0.0%	17.0%	10.4%	0.0%	
仮に自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合「利用すると思う」人の割合																					
地区全体	48.1%	42.3%	70.6%	47.7%	34.0%	58.8%	47.5%	46.2%	50.0%	37.8%	61.4%	53.0%	40.9%	58.3%	51.1%	33.3%	53.3%	40.4%	33.4%		
60歳以上	53.1%	53.1%	75.0%	56.5%	41.2%	60.0%	44.3%	53.1%	54.1%	31.8%	71.4%	63.3%	36.4%	83.3%	54.3%	40.0%	61.7%	37.9%	33.3%		

※ 人口は、平成27年4月1日現在(住民基本台帳)

※ 青色部分は、市全体(平均値)を上回っている地区

- 郊外部では**上八万、川内、国府地区**で、近郊区では**渭北、佐古、津田地区**で外出時の不便度や公共交通の利用意向が高い。
- 近郊区では、多くの路線バスが運行しているが、一部エリアで比較的人口密度が高い公共交通不便地域が存在している。

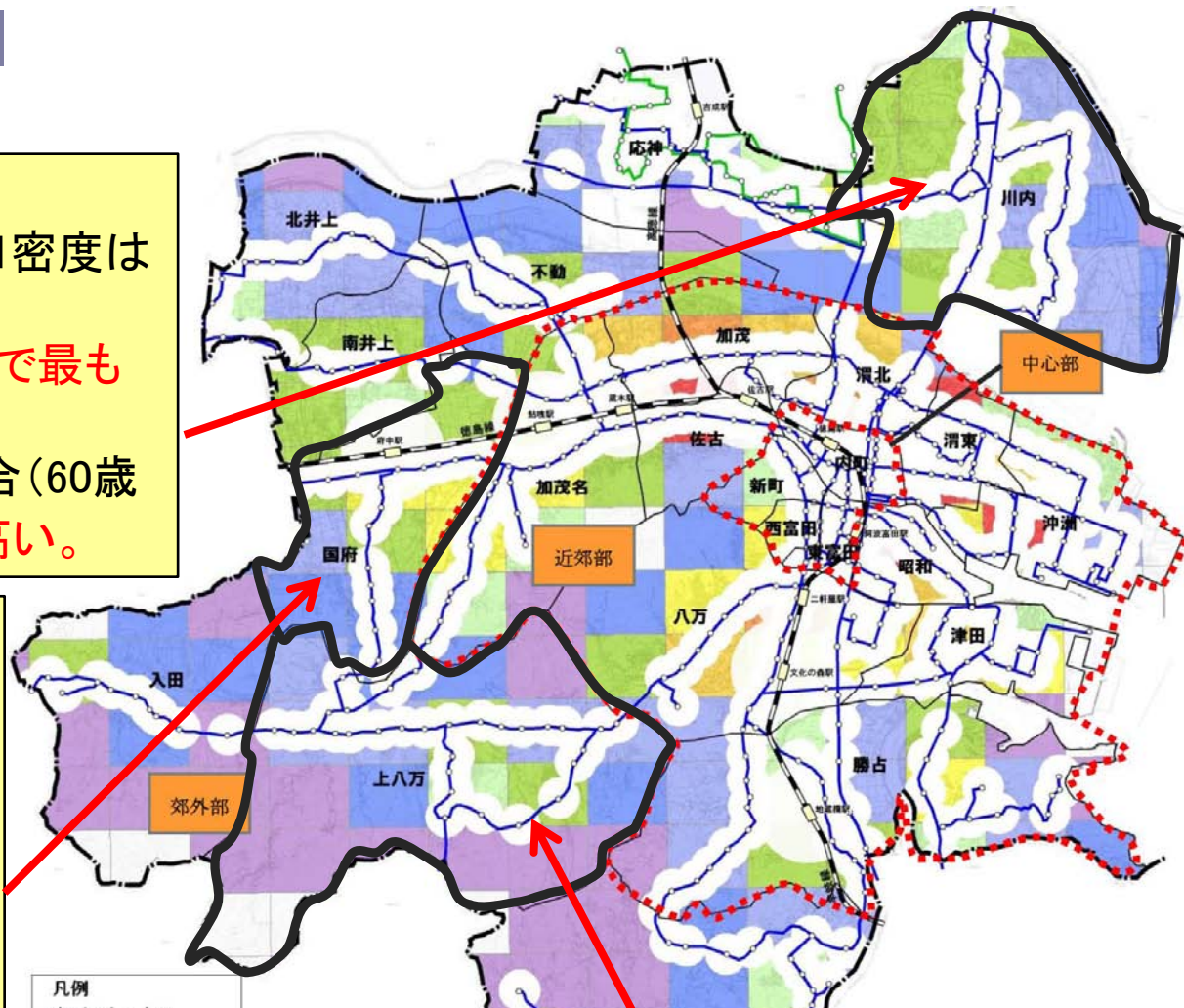
## ■ 郊外部

### 川内地区

- 公共交通不便地域の人口密度は地区西側で比較的高い。
- 65歳以上人口は、**郊外部で最も多い**。
- 交通手段がなくて困る割合(60歳以上)は、**郊外部で最も高い**。

### 国府地区

- 公共交通不便地域の人口密度は地区東側で比較的高い。
- 65歳以上人口は、**郊外部で2番目に多い**。
- 自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向は、年齢を問わず市平均を上回る。



#### 凡例

1 kmメッシュ人口
1~99人
100~499人
500~999人
1000~1999人
2000~2999人
3000~4999人
5000~5999人
6000~6999人
7000人以上
徳島バス・市営バス
応神ふれあいバス

### 上八万地区

- 高齢化率は、**30%**を超えている。
- 交通手段がなくて困る割合、自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向ともに、年齢を問わず市平均を上回る。

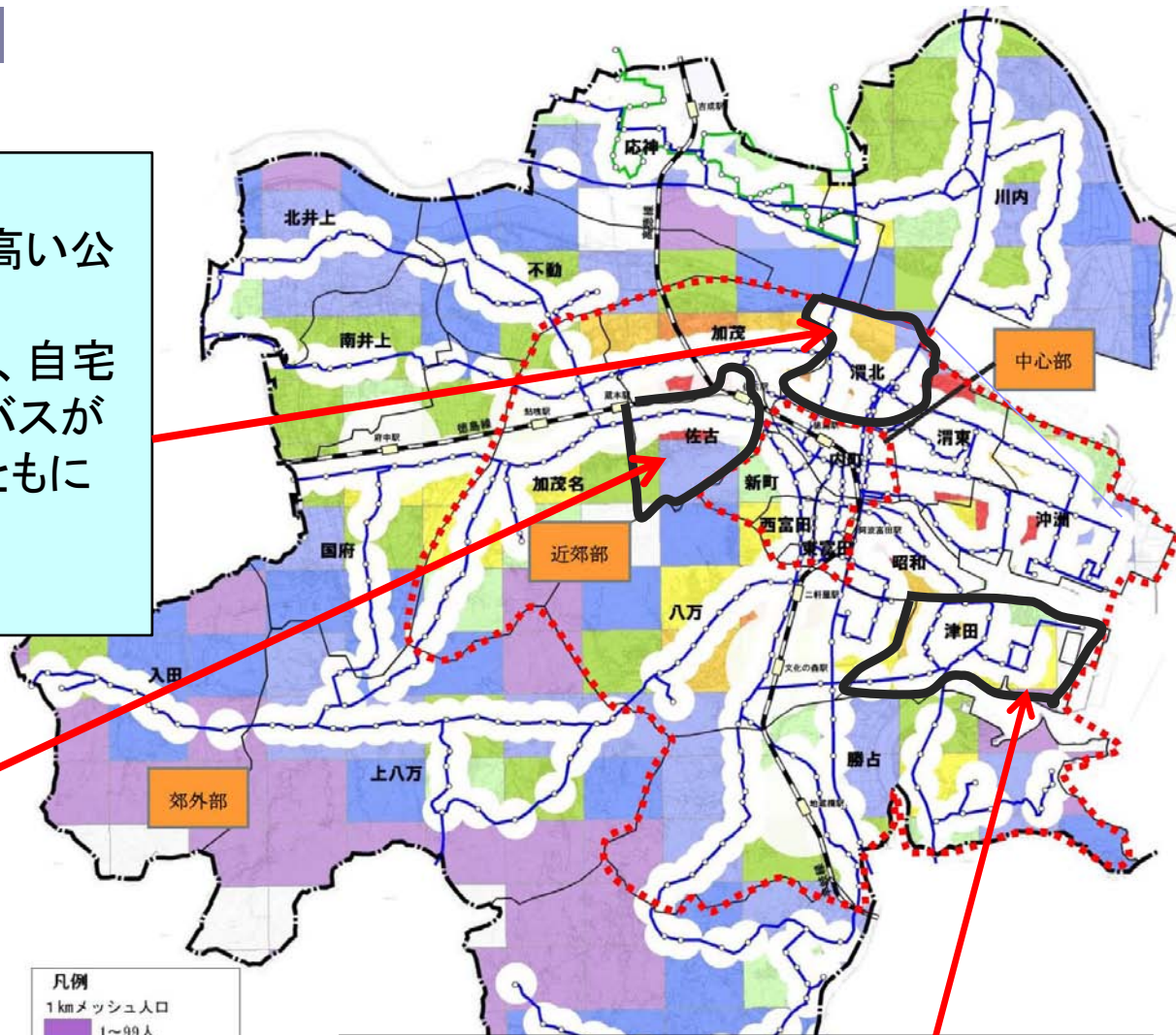
## ■近郊区

### 渭北地区

- 吉野川沿岸に人口密度の高い公共交通不便地域が存在。
- 交通手段がなくて困る割合、自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向ともに**近郊区の中で最も高い。**

### 佐古地区

- 高齢化率は**近郊区で最も高い。**
- 交通手段がなくて困る割合、自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向ともに高い。



### 津田地区

- 高齢化率は**近郊区で2番目に高い。**
- 自宅付近から目的地付近までバスが運行した場合の利用意向は年齢を問わず高い。

## 8 公共交通不便地域の減少に向けた取り組み

調査結果を踏まえ、公共交通不便地域の減少に向けて、既存バス路線の活用のほか、新たな移動手段の導入に取り組む。

新たな移動手段の導入については、導入地域の選定、導入する運行形態・サービス水準など、導入に向けた「基準」となる考え方を整理する。

### (1) 既存バス路線の活用

- 既存バス路線との競合や、事業の効率性・採算性などの観点から、既存バス路線の活用により対応することを視野に検討する。
- 検討にあたっては、既存の公共交通機関（鉄道、路線バス、タクシーなど）との連携・役割分担に配慮する。

### (2) 新たな移動手段の導入

- 新たな移動手段としては、コミュニティバス、デマンド交通、乗合タクシーなどの運行形態を想定。
- 導入にあたっては、地域の需要に見合った運行形態とするとともに、地域主体の運営方法による運行を目標として検討する。
- 運行ルート・便数・運賃などのサービス水準は、地域の実情とニーズに合った利便性を確保する。

## 9 スケジュール

### 平成28～29年度

- 導入地域の選定・運行形態などの検討

### 平成30年度

- 実証運行計画案の作成

### 平成31年度

- 実証運行の開始(1カ所)【目標】

以上